

弾劾 中曾根の靖国神社公式参拝

国鉄「分割・民営化」阻止 / 三里塚二期着工粉碎 /



靖国神社公式参拝 各国の反応は?

☆☆☆☆☆☆☆☆
敗戦40年目の8月15日、中曾根首相は、大多数の国民の反戦・平和の心をふみにじるばかりか、かつて日本帝国主義に侵略された各国の激しい批判をも押し切り、戦後の首相としては初めての靖国神社公式参拝を強行した。これは、戦争国家体制づくりへの一大エスカレーションであり、再び、天皇の名において人民を侵略戦争へとかり立てんとする許しがたい暴挙である。われわれは、今こそ反動・中曾根打倒へ総決起しなければならぬ。
☆☆☆☆☆☆☆☆

公式参拝を正当化する中曾根

靖国神社公式参拝問題は、靖国神社がかつての侵略戦争遂行上の思想的支柱であったことを最大の問題点に、信教の自由の問題も含め、憲法の根幹にかかわる問題であることから、従来の政府統一見解においても「違憲の疑いあり」とされていたのである。

「戦後政治の総決算」を自論の中曾根は、これをつくがえすため、昨年、元自衛隊統幕議長・林敬三を座長とする「閣僚の靖国神社参拝問題に関する懇談会」なる私的諮問機関を設置して審議を行なわせ、今年8月初旬、①歴史的に国のための犠牲者を慰霊・追悼するのは靖国神社、②首相・閣僚が国に命を捧げた人を慰霊・追悼するのは国民感情にもそつている、旨の全く都合のいい報告書を出させ、これにそつて8月14日には「官房長談話」を発表し、これまでの見解をくつがえし公式参拝を強行したのである。

そして、公式参拝後の記者会見で、ぬけぬけと「国民の大多数は公式参拝を支持してくれると信じている。長い間の習俗と社会通念に従っており、憲法に違反しないと判断した」と語り、公式参拝が国民の総意であり、社会通念上当然のことである。

大戦終結と解説

「大戦を正当化」韓国

「大戦を正当化」韓国
「参拝要請」を心配米
「過去の免罪図る」アジア



靖国神社を公式参拝し、本殿を出る中曾根首相と藤波官房長官
=15日午後1時45分、東京・九段で

内外に広がる警戒・懸念

商業新聞でさえ侵略戦争の危険を報道。中曾根は本気で戦争を準備している!

靖国神社とは、明治維新の官軍側の戦死者を祀ることから出発し、歴史的に天皇の軍隊において天皇のために死んだ者だけを神として祀り、偉業をたたえる場所である。

天皇と戦争を賛美する靖国神社

靖国神社とは、そもそも中曾根の語るような、「歴史的に国のための犠牲者を追悼する所」、「国のために付れた人（主）に国民が感謝を捧げる場所」なのだろうか。

靖国神社とは、明治維新の官軍側の戦死者を祀ることから出発し、歴史的に天皇の軍隊において天皇のために死んだ者だけを神として祀り、偉業をたたえる場所である。従つて、空襲や原爆による圧倒的多数の死者は全く対象外とされ、強制連行された朝鮮人民の死者にいたつては追悼どころか原爆慰霊碑すら別にされるというのが、靖国を頂点とする国家神道の歴史なのである。まさに靖国神社とは天皇と侵略戦争賛美を本質とし、徹底した差別排外主義イデオロギーにつらぬかれた存在なのである。

改憲・戦争国家体制づくりを許すな

中曾根は7月27日の自民党軽井沢セミナーで靖国神社公式参拝について「(どの国も)国のために付れた人に国民が感謝を捧げる場所がある。それは当然で、さもなくばだれが国に命を捧げるのか」と語っている。

これはまさに歴史の歪曲であり、戦争で親を子をつくりあげ、再び人民を侵略戦争へとかり出そうという意図に満ち満ちた絶対に許しがたいものである。

靖国神社公式参拝は、戦争国家体制づくりへの重大なふみこみである。

大軍拡と国家機密保護法を始めとする戦時立法の策定を行い、国鉄と三里塚を叩きつぶすことで反体制勢力を一掃し、靖国神社の公的認知を通し国民を差別・排外主義・侵略イデオロギーに染めあげ、改憲、戦争国家体制構築Ⅱ「戦後政治の総決算」を狙う反動・中曾根を絶対に打ち倒さねばならない。今こそ総力をあげ、三里塚・国鉄を基軸に総反撃に打つて出よう。

攻撃を粉碎せよ! 組織破壊 団結の強固な 家族・組合員